



ハグイオンレター



FROM ユアブレーション 尾上会計事務所



コラム

P1

保証料率からわかる会社の信用度ランク

金融機関から「プロパー」（金融機関が信用保証協会等の保証もなく自らの責任で直接融資する形）でお金を貸してもらえる会社はともかく、それが難しい場合は、利息とは別に信用保証協会等に信用保証料を払って保証をしてもらい、融資を受ける形となります。いわゆる「保証協会付き」融資です。

そしてその信用保証料ですが、一律ではなく、実はその会社の「信用度」によって大きく変わります。信用保証料率は、「中小企業信用リスク情報データベース（略してCRD）」と呼ばれるデータベースにより財務データが評価され、決定されます。信用保証協会のホームページには、その保証料決定スキームが紹介されていますので、ご参考になさってください。

＜兵庫県信用保証協会のHPより（詳細はHPをご覧ください）＞

	区分		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
基準料率	責任共有保証料率	B/Sあり	1.90%	1.75%	1.55%	1.35%	1.15%	1.00%	0.80%	0.60%	0.45%
		B/Sなし	1.15%								
	責任共有外保証料率	B/Sあり	2.20%	2.00%	1.80%	1.60%	1.35%	1.10%	0.90%	0.70%	0.50%
		B/Sなし	1.35%								

※責任共有とは信用保証協会 80%金融機関 20%で責任を分担するのに対し、責任共有外は信用保証協会が 100%責任を負う制度です。

先日あるお客様が、不動産を購入される際に、それなりの金額の融資を保証協会付きで受けられました。そのお客様では、直前の決算期で業績が大きく改善し、いい決算を迎えることができました。そうすると「以前の信用保証料率から 2 ランク改善しています！」と金融機関の担当の方から話を聞きました。保証料率は 0.35% 下がったことになったそうです。

金額の大きな融資で返済期間も長い場合には、保証期間も長期にわたり、保証料額も大きな金額になります。ちなみに 1 億円の借入で 15 年返済としますと、平均して 5 千万円を 15 年間保証してもらおう形となりますので、0.35% 下がるとざっくりの計算ですが 262 万円ほどの差が出ます。利息だけでなく、保証料も大きいですからね。



情報

Google が導いた チーム生産性向上の5つの柱

P2

生産性が高い「効果的なチーム」の条件とは何か・・・

Google 社内では、様々な業務に携わるチームは数百に及びますが、そのチームの中でも「生産性の高いチーム」「生産性の低いチーム」が存在します。そこで Google は、生産性が高い効果的なチームの共通点を発見するため、2012 年に「プロジェクト・アリストテレス」と名付けられた計画に着手しました。

プロジェクトの研究チームは、様々な角度から分析し研究を実施した結果、真に重要なのは「誰がチームメンバーであるか」より「チームがどのように協力しているか」であることを突き止めました。つまり、優秀な人材を集めただけでは生産性の高いチームは生まれず、チームがどのように協力して仕事に取り組んでいるかが重要なのです。

チーム生産性向上の5つの柱

あらゆるリサーチを行い、Google はチーム生産性向上に必要な5つの柱を導き出しました。

①心理的安全性	自分の過ちを認めたり、質問をしたり、新しいアイデアを披露したりしても、チームの誰も自分を馬鹿にしたり罰したりしないと、信じられる状況にあること。
②信頼性	お互いを信じあえるチームで働くことで人材は自らの仕事に責任感や自信をもてるようになる。
③構造と明瞭さ	職務上で要求されていること、その要求を満たすためのプロセス、そしてメンバーの行動がもたらす成果について、個々のメンバーが理解していること。
④仕事の意味	仕事の意味は、「経済的な安定を得るため」「チームの成功を助けるため」など人それぞれ。仕事の意味を強く感じられるチームで働くことで、業務中のやりがいだけでなく、働きに応じて得られる成果も大きなものとなる。
⑤インパクト	自分の仕事には意義があり、社会に対してよい変化をもたらすことだと思えること。

5つの中で圧倒的に重要なのが心理的安全性です。社員一人ひとりが、「このチームなら大丈夫だと」信じられるかどうか、チームの生産性を高めることにつながります。

参考：「プロジェクトアリストテレスとは？Google が導いたチーム生産性向上の5つの柱」

※新たにハクションレターの配信先をご紹介頂ける場合には、お手数ですが□に✓を入れて返信ください。

☐ 下記へ配信してください。

ユアブレーション 尾上会計事務所 宛

FAX 079-288-0997

会社名

TEL

FAX



P3

情報

片付けでムダを利益に変える

今みなさんのデスクのまわりは、どんな状態でしょうか。
「引き出しのいちばん奥にあるモノが何かを即答できない」
「デスクの上にありながら、1 ヶ月以上触れていない書類がある」
「1 週間以上使っていない文房具がある」

もしそういった状況であれば仕事のムダが発生しているかもしれません。

□ ムダという宝を探せ

片付けをしないと多くのムダが発生します。主に次のようなムダが考えられます。

① スペースのムダ

単なる物置と化している部屋があったり、デスクまわりに全く使わないモノや段ボールが積み重なっていないでしょうか。それらを片付ければ、その部屋やスペースを有効活用できます。

② 時間のムダ

デスクまわりに書類やファイルが無造作に積み重なっていれば、必要な書類を探しだすのに時間がかかり、貴重な時間を失うことになります。

③ 間違えるムダ

ものづくりの現場では、片付けがされていないと、間違った部品を使ってしまうリスクがあります。これは品質不良やクレームなど大きな問題につながりかねません。

オフィスでも、いろいろな資料が混在していれば、間違った資料を打ち合わせ先に持っていってしまう可能性があります。

④ 取りに行くムダ

頻繁に使用するものであるにもかかわらず、遠くにおいてあれば、それだけ時間をムダにします。取りに行く時間は価値を生み出しません。

ムダは利益を生まないばかりか、どんどん利益を侵食していきます。片付けをすれば、こうしたムダの数々を取り除き、利益に変えることができます。このような視点から、デスクまわりを見まわしてみてください。あなたのまわりにも、ムダという「宝」が眠っていないでしょうか。

□ モノを持つことはコストになる

「いつかは使うだろう」をコストとして見るとどうでしょうか。金銭的なものだけでなく、探す時間や取りに行く時間も立派なコストです。気づいたら傷んで使い物にならなくなっていた、ということがないように「捨てる判断基準」を持つことが大切です。

参考文献 著者：株式会社OJTソリューションズ 発行年：2012 年

書名：「トヨタの片付け」 発行所：株式会社中経出版



※今後ハクションレターの配信をご希望されない方は、お手数ですが□に✓を入れご返信ください。

□ 今後希望しない

会社名

ユアブレーション 尾上会計事務所 宛

TEL

FAX 079-288-0997

FAX

新型コロナウイルス感染症などの業務災害から企業や従業員を守る 「業務災害補償保険」について

企業を守る補償

安全配慮義務違反

従業員が新型コロナウイルスに感染し、
死亡し、遺族から損害賠償請求を受けた。

**安全配慮義務を果たしていないとして
企業の民事責任が問われる可能性があります。**

感染発覚後の対応費用

従業員が新型コロナウイルスに感染し、
施設の消毒費用や在宅勤務に必要な PC、タブレット
の通信費用などの負担が発生した。

**感染発覚後の対応が不適切な場合、
安全配慮義務違反を問われることがあります。**

従業員への補償

労災認定がある場合の従業員への補償金

従業員が新型コロナウイルスに感染し死亡した。
業務に起因して感染したとして、労災認定された。
政府労災の補償だけでは不十分と遺族は感じます。

労災認定がない場合の従業員への補償金

従業員が新型コロナウイルスに感染し入院したが、
感染経路は不明とされた。

**感染経路が不明の場合は労災認定されない場合も
あります。
労災認定までは時間がかかります。**

◇ この「業務災害補償保険」については、有限会社ユアブレーンにて取り扱っております。（取扱保険会社：損保
ジャパン・あいおいニッセイ同和）詳細は監査担当者にお尋ねください。

有限会社ユアブレーンは、損保生保のプロ代理店である有限会社リックと提携（共同募集）しております。